

令和2年度学校自己評価システムシート (県立岩槻北陵高等学校)

目指す学校像	節度を重んじ、新たな自分の創造に向け、主体的に学び続ける生徒を育む学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 生徒の学ぶ意欲と確かな学力を向上させ、生徒一人ひとりの進路実現を図る 2 家庭・地域と学校が共に教育力を高めていく 3 基本的生活習慣の確立を目指し、規律ある学校生活を送る 4 生徒の自主活動を通し、社会に貢献する心豊かな人間形成を図る
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 2 0 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	ここ数年、成績不振者、延べ欠点数は減少、成績優秀者は増加しているが、いずれも下げ止まり、上げ止まり傾向にある。進路ガイダンスや、基礎力診断テスト等をおし、進路に対する意識は向上してきている。進学希望者への実力養成と就職者への働く意識の向上が課題である。	(1)学習環境を整備・充実させ、学習に集中できる環境を整える。学び直しを活用し、生徒の基礎基本の定着を徹底させ、「わかる」授業をめざす。	①日々の指導を通じ、授業規律を確保する。 ②ICT活用を含めた、授業方法の工夫・改善。 ③放課後の勉強会、考査前の勉強会を実施し成績不良者の減少、優良者の増加を図る。	①「学習アンケート」の授業態度の達成率の向上。 ②「学習アンケート」の「わかる」の項目の向上。 ③欠点保持者の減少、成績優秀者の増加。	①チャイム着席、課題の実施率が向上。 ②9教科中7教科で「わかる」の割合が上昇。 ③成績優良者1.6%増加、成績不振者1.5%減少。	A	成績優秀者、不振者数が改善されている。授業が分かる割合が教科によっては10%近く伸びている。引き続き授業力の向上に努める。
		(2)生徒の進路意識を段階的に向上させ、生徒一人ひとりの望ましい進路実現を目指す。	①進路意識を向上させるためインターンシップを実施する。 ②JSTを活用し進路実現を図る。 ③動画配信などを行い、家庭学習を充実させ、進路実現に向けた学習を行う。	①インターンシップが実施できたか。 ②生徒の進路希望実現状況。 ③動画配信などへのアクセス状況。	①2学年で5日間の「インターンシップ」を実施。 ②進路決定状況60.8%。就職未内定者の増加。就職未内定者22名(前年5名)。 ③スタディサプリを導入し、動画を活用した授業を実施。	B	生徒の要望を聞きながら、インターンシップを引き続き実施する。到達度テストの評価を高めるための工夫を行う。
2	行事や公開授業の保護者の参加率は増加傾向にあるが、まだ高いとは言えない。学校の取り組みを、地域、近隣中学校、外部機関にアピールする。HPや一斉メールの一層の活用が課題である。	(1)HPやhokuryo.now(学校通信)を用いた情報発信をさらに充実させ、家庭や地域に本校の取り組みが伝わる体制を充実させる。	①HPの定期的な更新を行う。 ②hokuryo.nowや学年通信の定期的な発行で家庭地域との連携を図る。	①HPの更新回数。 ②学校通信や学年便り発行状況。	①HP北陵TOPICSを定期的に更新、分掌・学年で23回更新。部活動、図書も定期的に更新。 ②学校行事の中止のため学校通信は発行できなかった。学年便りは各学年とも学期2回程度発行。	B	HPを定期的に更新できた。部活動のページでは更新されていない部活動もあり、次年度は更新する必要がある。学校通信は多くの行事が中止のため発行できなかった。
		(2)学校説明会等で、在校生に参加を呼びかけ、生徒の活躍の場をより多く設定していく。	①学校説明会を工夫し、本校生徒の活躍の場を設ける。	①学校説明会での本校生徒の活躍の状況。	①学校説明会では、生徒会生徒の発表、放送部員の事前準備など、生徒が活躍する機会が持てた。	A	学校説明会では生徒が活躍する場が設けられた。前年度に比べ参加者も増加した。今後も参加者に積極的に生徒の様子を伝えたい。
3	基本的生活習慣が身につけている生徒は増加している。遅刻の延べ回数は昨年度大きく減少した。遅刻減少に向けた取り組みを継続し、欠席者減少に向けた取り組みを行う。	教職員間で生徒指導体制の共通理解を図り、学校全体として、系統的、一貫した指導を推進する。自主自立の精神の育成のため、マナー・時間管理の意識を向上させる。	①各学年で遅刻指導を実施するなど、引き続き遅刻、欠席を減少させる。 ②登下校巡回指導・昇降口での立哨指導を実施する。 ③HRや授業を通じ基本的ルール遵守の重要性を理解させる。 ④校内美化を行い、落ち着いた環境を整える。	①遅刻、欠席回数の減少。 ②近隣からの苦情、交通トラブル、事故件数の減少 ③朝指導・放課後指導の減少。 ④校内の清掃、整理状況。	①2学期1日平均の遅刻者31.8人に減少(前年38.1人)。2学期1日平均欠席者数29.6人に減少(前年42.2人) ②重大な交通事故なし。苦情電話11件。 ③朝指導・放課後指導対象者は固定化されている。 ④清掃点検を実施。整頓状況は良好。	A	遅刻、欠席回数が大幅に改善された。丁寧な指導を継続し、次年度も改善に努めたい。苦情の大半は通学時の交通マナーであった。交通マナーの指導に取り組む必要がある。
4	生徒会活動や部活動は活発になってきている。生徒の自己有用感を高められるよう、様々な場面で生徒が自ら考え、主体的に活動し、活躍できる場を設定する。特別な支援が必要な生徒が増加傾向であり、各種の支援を実施する。	生徒会を中心に、生徒の主体的な活動を促す。団活動やその他の行事を通して、生徒の自己管理能力を高める。教育相談については、外部との連携を強化するとともに、特別支援教育、多文化共生等の充実を図る。	①生徒が積極的に学校行事に取り組むようにする。 ②部活動の加入を推進し、部活動の活発化を図る。 ③生徒が地域活動に参加し、主体的な活動を身につけさせる。 ④教育相談体制の確立を図る。	①生徒の学校行事の満足度。 ②部活動加入状況。 ③地域の活動への生徒の参加状況。 ④特別支援教育委員会、多文化共生推進委員と連携し、相談体制が構築されたか。	①学校生活の満足度は83.3%(前年82.5%) ②部活動加入率46.7%(前年44.9%) ③コロナウィルス感染防止のため地域への活動に不参加。 ④定期的に委員会を開き、情報共有、相談体制が構築された。	B	学校満足度はほぼ前年並みであった。コロナ禍のなかでも、行事を工夫し、生徒の活躍する場を設けたい。課題がある生徒に対し丁寧な対応ができた。次年度も個々の生徒に丁寧な対応を行う。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和3年1月27日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業見学をしたが、生徒は授業に集中している様子がうかがえた。また、教員が生徒に問いかけている場面があり、生徒が考える授業が行われていた。また、コロナ禍で工夫した授業が行われていた。 ・次年度以降もインターンシップを実施してほしい。学校以外の人に接すること、社会のルールを学ぶことは大切である。 ・コロナ禍で進路決定率が下がっているが、粘り強く取り組んで欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・広報は大切である。HPなどで積極的に情報を発信して欲しい。また定期的にHPを更新し、最新の情報を掲載することは大切である。 ・学校行事の中止などで学校通信が発行できなくて残念である。行事ができなくても工夫して学校通信などを発行して欲しい。 ・学校説明会で生徒会生徒が発表するなど、生徒の活躍の場があることは重要である。今後とも是非生徒が活躍できるようにして欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者が減少しているのは、普段からの取組の成果が出ている。今後も遅刻・欠席を減らすよう取り組んで欲しい。 ・マナーを守ることは大切である。苦情電話があるのは、学校が話しやすいからである。今後ともしっかり対応して欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の活動は大切である。現在行っている「挨拶運動」を継続してほしい。 ・部活動は高校生活の中で思い出に残る大切なものである。部活動を活性化させて欲しい。 ・今年度はコロナ禍の影響で地域活動ができなかったのが残念である。地域との交流に取り組んで欲しい。 	

